

2016年9月26日
公益財団法人 マツダ財団

マツダ財団 2016 年度の研究助成を決定

—サステイナブルで心豊かな社会を目指して—
科学技術の振興と青少年の健全育成に関する研究 40 件を助成—

公益財団法人マツダ財団(理事長 金井誠太)は、2016 年度の研究助成を決定しました。

今年度は、全国の大学・研究機関などから、過去最高となる 492 件の応募があり、その中から「科学技術振興関係」として 33 件に助成金額 3,500 万円を、また「青少年健全育成関係」として 7 件に助成金額 500 万円の研究助成を決定しました。合計では、40 件、総額 4,000 万円となり、昨年度よりも 300 万円の増額となりました。

なお、科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした 4 件の研究に対し、「マツダ研究助成奨励賞(科学技術振興関係)」を授与し、副賞として研究助成金 50 万円を各々追加助成します。

今年度の研究助成は次の通りです。

1. 科学技術振興関係の研究助成は、科学技術の発展に寄与する優れた 33 件の研究に決定しました。助成金額は 3,500 万円です。マツダ財団では従来から、次世代を担う若手研究者および未来をひらく芽となる萌芽的研究を優先して助成を行っており、今回の 40 歳以下の若手研究者への助成割合は、88%(前年度は 84%)となりました。
マツダ財団が重点をおく「循環・省資源に貢献する研究」では、「液相プロセスを活用した酸化触媒の新規合成法の開拓」(広島大学)、「新規伝熱性セルロースナノ繊維を用いた排熱基板材料の創出」(立教大学)など、エネルギーや物質の循環・省資源に取り組みサステイナブルな社会に貢献する 21 件が選ばれました。また、「マツダ研究助成奨励賞」では、現在注目を集めている自動運転技術への貢献が大いに期待できる「降雪時の自動運転のための環境変化適応型の自己位置推定」(金沢大学)などが選ばれています。
2. 青少年健全育成の研究助成では、助成 7 件、助成金額は 500 万円です。青少年の健全育成にかかわる実践的な研究の中でも特に社会的必要度、要請度の高いと認められる研究を、助成対象としています。
今回は、創作演劇を通じて「子どもの表現する力、協力・協働する力を促進するための教育プログラムの実施と評価および学校教育への導入の提案」(奈良教育大学)を目指す研究や、「小中学生がこころの不調に適切に対処するためのメンタルヘルス・リテラシー」(岡山県立大学)では、地域社会全体でメンタルヘルス疾患への認識と理解を醸成していくために、小中学生を対象としたメンタルヘルス教育の有用性と教育プログラム構成について明らかにしていくなど、現在の社会的課題を踏まえつつ、誰もが心豊かに生きることのできる社会を実現するための多様な研究が選ばれています。

なお、2017 年度青少年健全育成のための市民活動支援については、10 月から広島、山口両県で募集を開始します。

マツダ財団は、科学技術の振興と青少年健全育成のための助成などを行うことにより、世界の人々が共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的として、1984年に発足しました。これまでの助成実績は今回を含め合計2,036件、16億2,829万円となりました。

今後一層、公益財団法人としての使命を果たし、社会のお役に立てるよう、マツダ財団はこれからも更なる社会貢献に取り組んでまいります。

以上

第32回(2016年度)マツダ研究助成一覧

マツダ財団ホームページ: <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

【科学技術振興関係】

助成金額は一律100万円。但し、「マツダ研究助成奨励賞」に選出されたものは、50万円の追加助成。

		◇印は循環・省資源に係わる研究	◆印は「マツダ研究助成奨励賞」対象者		
地域	研究題目	研究代表者(役職は応募時)		助成金額(万円)	
北海道	ナノワイヤ異種集積技術に基づくGe/III-Vハイブリッド電子デバイスの創成 ◇	トミオカ カツヒロ 富岡 克広 北海道大学大学院情報科学研究科准教授		100	
北海道	機械力学の観点から見た膝関節再建術靭帯断裂メカニズムの解明	タケダ リョウ 武田 量 北海道大学大学院工学研究院助教		100	
青森県	新規スラグフローレーション法によるアルミニウムスクラップの高清浄度化とアップグレードリサイクルプロセスの開発 ◇	アライ ヒロタダ 新井 宏忠 八戸工業高等専門学校准教授		100	
青森県	生体内温度分布の非侵襲高精度計測実現のための治療支援ロボットの開発	イセキ ユウヤ 井関 祐也 八戸工業高等専門学校助教		100	
宮城県	LITGSによる高圧層流火炎の定量温度計測技術の確立 ◇	ハヤカワ アキヒロ 早川 晃弘 東北大学流体科学研究所助教		100	
秋田県	革新的な電界駆動型磁気デバイスの創製に向けた高機能強磁性・強誘電薄膜材料の探索・合成 ◇	ヨシムラ サトル 吉村 哲 秋田大学大学院理工学研究科准教授		◆150	
山形県	凝集誘起発光を利用したフルカラー発光ナノ粒子の開発	ナカバヤシ カズヒロ 中林 千浩 山形大学大学院有機材料システム研究科助教		100	
千葉県	有機金属分解法により作製した磁性ガーネット薄膜による巨大磁気表面プラズモン効果の発現	アシザワ ヨシト 芦澤 好人 日本大学理工学部准教授		100	
東京都	新規伝熱性セルロースナノ繊維を用いた排熱基板材料の創出 ◇	ウエタニ コウジロウ 上谷 幸治郎 立教大学理学部助教		100	
東京都	キャッシュを用いたバケット転送処理の省電力化および高速化に関する研究 ◇	ヤマキ ハヤト 八巻 隼人 電気通信大学大学院情報理工学研究科助教		100	
東京都	超高温環境下における変形分布計測システムの開発と応用	イノウエ リョウ 井上 遼 東京理科大学基礎工学部助教		100	

地域	研究題目	研究代表者(役職は応募時)	助成金額(万円)
東京都	マイクロストリップ三角形共振器を用いた小型なチューナブルフィルタ	ミヤタ ナオキ 宮田 尚起 東京都立産業技術高等専門学校准教授	100
東京都	pH 応答性希土類錯体フィルムにおける発光色の電場制御とプロトン伝導に関する研究	カメブチ ハジメ 亀淵 萌 東京理科大学理学部助教	100
東京都	革新的 1 軸制御ベアリングレスモータの効率を最大化する構造及び制御に関する研究	スギモト ヒロヤ 杉元 紘也 東京工業大学工学院助教	100
東京都	触媒スクラップ中の白金族金属を効率的に分離回収する新技術の開発	タニノウチ ユウキ 谷ノ内 勇樹 東京大学生産技術研究所助教	100
神奈川県	バイオマス変換反応の開拓に向けた酵素機能を模倣した固体表面反応場の創製	ヤマグチ ショウ 山口 渉 東京工業大学物質理工学院助教	100
石川県	ナノロッド構造を持った有機系太陽電池の圧着による超低コスト作製技術の創出	タイマ テツヤ 當摩 哲也 金沢大学新学術創成研究機構准教授	100
石川県	降雪時の自動運転のための環境変化適応型の自己位置推定	ヨネダ ケイスケ 米陀 佳祐 金沢大学新学術創成研究機構助教	◆150
石川県	多元系遷移金属硫化物からなるナノバルク熱電材料の創製	マエノソノ シンヤ 前之園 信也 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科教授	100
福井県	キンク変形を応用した炭素繊維強化積層構造体の曲げモーメント織込型プレストレス構造設計に関する研究	ライ ショウブン 雷 霄雯 福井大学学術研究院工学系部門講師	◆150
岐阜県	緑内障による失明率軽減にむけた視神経乳頭解析法の検討	ムラマツ チサコ 村松 千左子 岐阜大学大学院医学系研究科特定研究補佐員	100
愛知県	金-チタニア系プラズモニック光触媒における酸化還元サイトの可視化と反応メカニズムの解明	カワムラ ゴウ 河村 剛 豊橋技術科学大学大学院工学研究科助教	100
愛知県	応答曲面法を利用した種々の環境におけるロボットの最適運動方策学習	アリイズミ リョウ 有泉 亮 名古屋大学大学院工学研究科助教	100
愛知県	資源性と安全性に優れた Fe ₂ VAl 熱電材料の高効率化に向けた基礎研究	キムラ コウジ 木村 耕治 名古屋工業大学大学院工学研究科助教	100
京都府	環状骨格ポリマーの精密合成と自己組織化による革新的機能空孔材料の創出	テランマ タカヤ 寺島 崇矢 京都大学大学院工学研究科助教	100
大阪府	遠紫外分光法によるイオン液体の電極界面における電子状態研究	タナベ イチロウ 田邊 一郎 大阪大学大学院基礎工学研究科助教	◆150
大阪府	外部刺激により接着力をオン-オフ可能な易解体性接着材料の開発	サトウ エリコ 佐藤 絵理子 大阪市立大学大学院工学研究科講師	100
兵庫県	超臨界流体を利用した超深穴レーザー加工	ヨシキ ケイスケ 吉木 啓介 兵庫県立大学工学研究科助教	100
奈良県	中性子線イメージングを目的としたラジオフトルミネッセンス材料の開発	オカダ ゴウ 岡田 豪 奈良先端科学技術大学院大学助教	100

地域	研究題目	研究代表者(役職は応募時)	助成金額(万円)
広島県	種々のひずみ速度における力学場駆動マルテンサイト変態及びその逆変態を利用した鉄基合金の自己治癒機能の検討	イワモト タケシ 岩本 剛 広島大学大学院工学研究院准教授	100
広島県	液相プロセスを活用した酸化窒化物光触媒の新規合成法の開拓	カタギリ キヨフミ 片桐 清文 広島大学大学院工学研究院准教授	100
徳島県	周波数変調信号と最適窓関数を利用した非接触1探触子空中超音波検査技術の開発	イシカワ マサシ 石川 真志 徳島大学大学院理工学研究部助教	100
長崎県	分子凝集誘起発光に立脚した高輝度発光材料の開発と光増感剤への応用	ハギモリ マサヨリ 萩森 政頼 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)准教授	100
科学技術振興関係 計 33 件			助成金総額(万円) 3,500

「マツダ研究助成奨励賞」(科学技術振興関係)一覧

研究代表者(役職は応募時)	研究題目
ライ ショウブン 雷 霄雲 福井大学学術研究院工学系部門講師	キンク変形を応用した炭素繊維強化積層構造体の曲げモーメント織込型プレストレス構造設計に関する研究
選考理由	本研究は、CFRP 積層構造体の板要素および構成するファイバーに外力を負荷した時に生じるキンク変形を積極的に利用して、残留応力分布の一般化力に相当する曲げモーメントを構造の中に織り込んだ「力学構造を連成した機能構造設計」の学術的指針を提案するものである。これによって、異方性の制御などアクティブ機能性複合材料の開発に大きく貢献でき、その先進性と実用性にも優れている研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。
ヨネダ ケイスケ 米陀 佳祐 金沢大学新学術創成研究機構助教	降雪時の自動運転のための環境変化適応型の自己位置推定
選考理由	本研究は、積雪時の自動運転の課題である自車位置推定の精度について、ノイズの影響を考慮した観測モデルと観測情報の再構成アルゴリズムにより 悪天候下でも頑健な位置推定手法を提案するものである。これによって、地図の特徴物が遮蔽される積雪時などにおける自動運転技術が大幅に向上することが期待でき、その革新的な高い技術内容に対して、奨励賞を贈呈する。
タナベ イチロウ 田邊 一郎 大阪大学大学院基礎工学研究科助教	遠紫外分光法によるイオン液体の電極界面における電子状態研究
選考理由	本研究は、電極界面でのイオン液体(アニオンとカチオン)の挙動と電子状態を明らかにするため、独自に開発した減衰全反射型遠紫外分光装置と理論計算を基に、物質の電子状態を直接反映する遠紫外から紫外域(波長 150-300 nm)における電圧印加下での電極界面の吸収スペクトル測定を実現するものである。独創性、先進性に優れた研究計画が提案されており、大きな成果が期待でき、その高い技術内容に対して奨励賞を贈呈する。
ヨシムラ サトル 吉村 哲 秋田大学大学院理工学研究科准教授	革新的な電界駆動型磁気デバイスの創製に向けた高機能強磁性・強誘電薄膜材料の探索・合成
選考理由	本研究は、室温で強磁性かつ強誘電性を示す単相の薄膜材料を用いて電界印加のみにより完全に磁化方向を反転させることができる超大容量・超低消費電力の革新的な「次々世代磁気デバイス」を世界にさがかけて実現することを提案するものである。この革新的な電界駆動方式は、これまでの電流磁界の印加や流行の偏極スピンの注入とは全く異なる方式であり、その先進性と実用性にも優れている研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。
計 4 件	

【青少年健全育成関係】

地 域	研 究 題 目	研 究 代 表 者(役職は応募時)	助成 金額 (万円)
栃木県	青少年のノンアルコール飲料摂取と飲酒行動に関する縦断調査研究	クボ モトヨシ 久保 元芳 宇都宮大学教育学部講師	70
千葉県	学齢期の児童生徒に対する認知症疾患教育の取り組み—認知症こどもカプロジェクト—	ヒラノ シゲキ 平野 成樹 千葉大学大学院医学研究院講師	75
東京都	青少年のオンラインプライバシー保護に関する研究	ミヤシタ ヒロシ 宮下 紘 中央大学総合政策学部准教授	80
奈良県	子どもの表現する力、協力・協働する力を促進するための教育プログラムの実施と評価および学校教育への導入の提案—創作演劇に着目して—	ナカヤマ ルミコ 中山 留美子 奈良教育大学教育学部准教授	60
岡山県	小中学生がこころの不調に適切に対処するためのメンタルヘルス・リテラシー	イノウエ サチコ 井上 幸子 岡山県立大学保健福祉学部准教授	70
香川県	学校と地域の連携・協働に係る「地域コーディネーター」養成プログラムの開発	ノムラ カズオ 野村 一夫 香川大学大学院教育学研究科特命教授	75
福岡県	発達障害を有する児童生徒に対する家庭学習支援における効果的な支援方法の開発	ヤマグチ ユウスケ 山口 雄介 特定非営利活動法人九州大学こころとそだちの相談室心理臨床部長	70
青少年健全育成関係 計 7 件		助成金総額(万円)	500